

共同募金・社会課題解決プロジェクトへのご協力ありがとうございました!

ひなばと vol. 14号でご案内しました平成27年1月から3月末日までに行われた広島県共同募金会による社会課題解決プロジェクトに対し、多数の方々にご協力頂きました。実に124件もの方々(個人・団体・有志等)から募金を頂戴し、期間中の合計寄付金額は、113万5,267円となり、広島県共同募金会を通じて、143万5,267円の交付金を頂く予定になりました。当センターとして、募金額の合計が100万円を超えることは、社会課題解決プロジェクトに参加後、初の快挙であり、募金件数も年を追うごとに増加しております。ピピオの活動への期待を大いに感じる結果となりました。

この場をお借りして、御礼申し上げます。ありがとうございました。

～ピピオからのお知らせ掲示板～

・寄付等のご協力ありがとうございました

部谷様、梅本様、山口様、東様、米澤様、新田様、井上様、森様、佐藤様、佐々木様、青木様など多数の方々から寄付(金銭、生活用品など)を頂いております。日々の子どもの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。この場をお借りして御礼申し上げます。

・生活用品の募集をしています

ピピオ子どもセンターでは、「ピピオの家」・「はばたけ荘」から巣立つ子どもたちへの生活用品(家具家電含む)等の提供を行っています。皆様のお手元にあります、使われていない生活用品等をご提供頂ければ幸いです。

ホームページとパンフレットが新しくなりました

・どちらも、「ピピオの家」・「はばたけ荘」について紹介しています。
・ホームページはスマートフォン・タブレットでも閲覧しやすいものになっています。また、会報「ひなばと」も閲覧できます。



平成27年4月末日時点の会員数

| | | | |
|-----------|-----|-----------|-----|
| 正会員 (個人) | 93名 | 正会員 (団体) | 4団体 |
| 賛助会員 (個人) | 62名 | 賛助会員 (団体) | 2団体 |

事務局雑記

- 事務局が入居している部屋のベランダには、洗濯水道栓があり、前住者が忘れていったと見られる、洗濯機給水ホースの取付具が残っています。
- ピピオの家・はばたけ荘の子どもがアパートで一人暮らしを始めるときは、数人の大人で引越・部屋づくりを手伝っています。K君のときもベランダに洗濯機を置きました。ベランダが狭かったので、ホース取付具のネジ回しを2方向からK君と私が半分ずつしたのですが、一緒に作業することがとても楽しそうでした。何とか取り付けて私がホッとしたところ、「あ、Oさん(私)がニコッとしてる!」と言いながらK君自身がニコニコしていました。ベランダの水道栓を見ると、その時の彼の顔を思い出します。



発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局

〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル505号

TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659

ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>

ひなばと



～NPO法人ピピオ子どもセンター 会報～
vol. 15

平成27年5月16日

子どもの日記念シンポジウム2015・開催

4月26日(日)午後1時30分から広島市青少年センターにて『少年の更生のために私たちができること』をテーマに、当法人が後援する、子どもの日記念シンポジウムが開催されました。シンポジウムは、2部構成で、第1部が演劇『はばたけピピオ! パート6～ひとりじゃないから～』、第2部がフリートーク『10代が考える同世代の非行について』でした。

当日は、来場者数が過去最多となり、開場時間を5分前倒しとし、対応するという盛況ぶりでした。

第1部の演劇は、少年院を退院した少年が主人公の物語です。彼は、更生を図ろうと懸命に努力するのですが、上手くいかず、かえって心無い親や世間から冷たい仕打ちを受け、自らを損なってしまうようになります。彼は未来を見出すことができるのか。彼を支えるものはあるのか。この点が見どころでした。

那須、蓮見両弁護士が生み出した脚本に、高校生や弁護士、理事、会員等の役者、裏方が命を吹きこんだ舞台は多くの涙を誘いました。

また、第2部のフリートークは、進行役の那須、蓮見両弁護士の問いかけに対し、舟入高校、沼田高校、基町高校の高校生計11名が各々の意見を展開するという形式で行われました。話し合いを経て、高校生は、非行が非行少年の個人的な問題に止まらず、社会的な問題を孕んでいることを浮き彫りにしてくれました。

第1部、第2部を通し、私たちは非行少年をどのように捉え、どう関わっていくのかが問われました。この問いに対する正解はないかもしれません。

考えること、そこから始めるよりほかないのかもしれませんが、人は変わる。そう信じ、考え続けたい。私はそう思いました。今回のシンポジウムが、来場者各々の答えを導き出すヒントとなりますことを祈ります。ご来場くださった方々、シンポジウム開催にご協力くださった関係各位に感謝申し上げます。

掛 幸太



会員の皆様へのご挨拶～第15回～桑原正彦

「NPO ピピオの使命」

2014年度の日本の家庭の貧困率は、16.3%と発表された。子どもの6人に1人が経済的、家庭的に恵まれない生活を強いられていることになる。さらに、子どもの生育に必要な日本の社会福祉費は、GDP比で、僅か1.74%という。子どもが、疎んじられている社会、子どもにお金をかけない社会、これが日本である。そのくせ、20年先の人口減少を憂慮するあまり、少子化対策と称して、名ばかりは立派な政策を打ち出す。これで、本当に子ども達は幸せになれるのであろうか。

子ども達の幸せとは、両親の熱い愛情に育まれて、緑あふれる自然の中で、沢山の友達と交流し、自身の持つ得意な才能を伸ばしてゆくことであろう。そのことが、日本の社会の幸せに、社会の発展にもつながってくる。

2011年にNPOピピオが発足して、4年が経過した。その間、広島弁護士会の皆さん方を中心として、サポーターの皆さん方、企業や行政の方々の暖かいご支援があって、女子寮のほかに、昨年からは男子寮もできて、今、必要な支援体制が着々と整備されてきた。体は勿論、心休まる安泰の場所を持たない思春期の子ども達を、NPOピピオは、総力を挙げて救い出そうとしている。その姿は、傍目に見てもまぶしく、頼もしい。

今、私たち小児科医は産婦人科医と協働して、「成育基本法」の制定を、国会にお願いしている。本法は“子どもを、人格を有する権利主体と認め、子育てを次世代育成の社会全体の問題にとらえて、その心身を健やかに育成していくための基本理念を定めたもの”である。国の責務、地方公共団体、医療関係者の責務等を明らかにして、国民の健康、社会福祉の増進に資することを目的としている。現行の180本近くある子どもの成育に関する法の総合的、有機的な推進を図るための理念法である。去る2015年5月13日、参議院議員会館で、与党側の議員約85名が集まって、本法成立のための議員連盟が立ち上がったところである。

NPOピピオが、今ほど、活躍しなくても良い社会を目指して、頑張らなければならない。

NPO法人ピピオ子どもセンター理事 桑原 正彦

第6回ボランティアスタッフ養成講座のご案内

本年6月3日から7月22日にかけて第6回ボランティアスタッフ養成講座を開催します。

当センターでは、子どもシェルター「ピピオの家」と自立援助ホーム「はばたけ荘」の運営にあたり、多数のボランティアスタッフの皆さまにお手伝いいただき、本年度も新たなボランティアスタッフを募集したいと考えています。ボランティアスタッフに応募される方にはこの養成講座（全8講）を受講していただくこととしていますので、別紙の募集案内をご覧ください。

また、この講座は、公益財団法人マツダ財団との共同事業であるスタートラインプロジェクトの一環として開催しており、現在ボランティアスタッフや子ども担当弁護士として関わっている方のスキルアップも目的とし、さらには広島近隣の大学等で福祉・教育・心理等を学ぶ学生の方など、子どもの問題に関心のある方にも参加を呼びかけています。

多くの方のご参加を希望しておりますので、よろしくお願いいたします。

＝スタッフ通信 第8回＝

はばたけ荘スタッフのHです。

はばたけ荘スタッフになって早10か月が過ぎようとしています。最初の入居者が10月24日、次が28日と続いて入居しました。現在5人目で、1人が自立、4人が入居中です。はばたけ荘のスタッフになる前は、ピピオの家のボランティアも経験させていただきましたが、女子と男子では大違いです。私自身女の子の3人娘でしたからその違いがよく分かります。

まず、食べる量が違います。今まで最高が4人で1食7合のご飯を食べました。この時は牛丼をしたせいでもあるのですが、正直驚きました。虐待等でお腹いっぱい食べていないことがあったからかもしれませんが、女子ではこんなことはまずありません。でも最近では落ち着いてきたからかもしれませんが食べる量も少しは減っているような感じがします。また、男の子ではガサツな面が多いと言えます。話し方からして違います。

料理を作るスタッフの方も男の手料理と言えは聞こえはいいですが、子ども達にとっては可哀想なものです。ボランティアの方には食事づくりをしていただき、とても助かっています。

私が以前勤めていた県警の発表によれば、昨年度の児童虐待事案の把握件数は787件、把握児童数は1,404人で、前年と比較し299件、569人それぞれ増加しています。

今後この数字が減っていくことが望ましいのですが、複雑な社会になり、益々増加していくような気がします。親が悪いのか、子どもが悪いのか、それとも社会が悪いのか、その理由は私には分かりませんが、はばたけ荘がますます必要になっていくような気がします。

子どもの笑顔と安心、安全な地域づくり！ネットワーク結成準備会 シンポジウムのご報告

平成27年2月1日に「子どもの笑顔と安心、安全な地域づくり！ネットワーク結成準備会」の行ったシンポジウムに参加してきました。

この長い名前の準備会は、ピピオ子どもセンターやCAP広島、ひろしまチャイルドライン子どもステーション、子ども虐待ホットライン広島、広島県社会福祉士会子ども家庭支援委員会など、子ども関連の団体がネットワークを作るために立ち上げた準備会です。ネットワークを立ち上げるためのイベントとして、ゲストに尾木ママこと尾木直樹氏をお迎えしてシンポジウムを行い、各団体のリレートークと尾木ママの講演を行いました。

私は、ピピオ子どもセンターのメンバーとして、昨年秋から会議に参加し、準備会のメンバーとして活動していました。

CAP広島は、学校などで子どもたちに身を守る方法などを教えるワークを開いているNPO法人です。ひろしまチャイルドライン子どもステーションは、子ども専用の電話相談を行っているNPO法人です。子ども虐待ホットライン広島は、虐待に悩む親の側を支える活動をしています。広島県社会福祉士会子ども家庭支援委員会は、行政や児童相談所と連携をとって、実際の虐待の現場にかかわっています。

ネットワークにかかわることで、各団体が普段、どのような活動を行っているかを知ることが出来ました。顔を見て一緒に活動することそのものが、各団体の連携を深めるための大切な基盤になったと思います。

シンポジウム当日は、500人余りの人に集まっていただき、各団体の普段の活動を紹介することができました。今後も、ゆるやかなネットワークを続け、子どもたちの笑顔と安全を守るための活動をしていきたいです。

寺西 環江